円高による日本企業の海外移転が止まらない。
安い労働力、優秀な人材を求めてベトナム、タイ、中国の内陸部などに入り込んできたが、今後日本企業は、ミャンマーに向かうであろうと、コンサルタントの大前研一氏は予測する。

（以下大前氏談）
これまでミャンマーは軍事政権で国際社会から孤立していたが、自宅に軟禁していた民主化運動指導者アウン・サン・スー・チー女 史を昨年解放して、選挙への立候補も認めるなど民主化に舵を切り、2014 年の ASEAN（東南アジア諸国連合）議長国就任も決定した。
これを私は 15 年間、首を長くして待ち望んでいた。なぜならミャンマーは、アジアで最も人件費が安く、辛抱強くて手先が器用な 魅力あふれる労働力を持っている国だからである。今や中国の人件費は内陸部で月 3 万～4 万円になっている。沿岸部はさらに高く、しかも毎年 15%くらいずつ上がっているので、 人民元高がしばらく続くことを考えると、5 年後には 10 万円を覚悟しなければならない。

タイは今回の大洪水でしばらく混乱が続き、カンボジアなどから安い労働力の流入もあるため､現在の 2 万～3 万円からさほど上がることはないだろう｡ベトナムは 10 年前から徐々に上がり、現在は 1 万円近くになっている。
一方、ミャンマーの人件費はブルーカラーが月 20～25 ドル、つまり 1600～2000 円ほどである。
日本の人件費が月 20 万円とすれば「100 分の 1」なのだ。人口が約 5300 万人なので企業が殺到すれば人件費も上がっていく が、ベトナムなどの例から見ても産業基盤が整うまでには 10 年以上かかるだろうから、1 万円になるのはかなり先だと思われる。
これまでミャンマーはタイの華僑が製造に利用していた。ただし、軍事政権の民主化抑圧に対し､アメリカが経済制裁を課していた ので､輸出する時はアメリカに睨まれないよう、

タイやシンガポール経由で交易していた。
しかし、ヒラリー・クリントン国務長官のミャンマー訪問によって、両国の関係改善が一気に進むと予想される。そうなれば、日本 企業もアメリカの目を気にすることなく正面玄関から堂々と入って行けるようになる。全日本空輸（ＡＮＡ）の伊東信一郎社長は１１日、都内で定例会見を開き、日本からミャンマーへの定期便を１２年ぶりに再開することを決めたと発表した。伊東社長は「できる限り早く就航できるよう準備を進めている」と語った。

最後の楽園といわれる場所についてお話します。

今世界中の起業家の注目を集めており
見て回ったり遊んだりするにも面白い場所ですが
大きなビジネスチャンスがたくさん眠っている場所でもあります。

その場所とは、ミャンマーです。

先日、そのミャンマーに行って参りました。
今民主化に向けて国全体が大きく動いており
経済発展も著しい状態です。

ミャンマーは多くの日本人が持っている想像より
かなり良いところです。

軍事政権で政治の偏りはあるものの
それも急速な勢いで民主化に向かっています。

人が昔のタイのようにやさしい感じで、
あの大前研一氏も「最後の楽園」と推薦するほどです。

当社はミャンマーは、
中小企業の海外進出先のラストフロンティアだと思っています。

基本的に、治安が大変良い国で、且つ、アジアで、
親日で、真面目で勤勉性な国民・物価が安い
という条件を満たすアジアのスポットは
恐らくミャンマーしかないと思っています。

また、例えば大企業が
何らかのビジネスの立ち上げや事業化を進める場合は、
ある程度の量と供給や受給の安定性確保が必須となるので、
ミャンマーのインフラの現状を考えると、
安定性や一定の量を確保することはとても難しい状況です。

そして、現在のところ日本政府は

アメリカのミャンマーに対する経済制裁政策に
ある程度同調しており、
そのために、日本の大手企業がミャンマーで経済活動を
積極的に行うことは厳しいという状況です。

そのため、その大企業が進出できない
スキマビジネスのチャンスがたくさん残されています。

更には、当社にはミャンマーのある関係者とも強いパイプを持っております。

その一部をお話させていただきますと・・・

【１】水産物分野

ミャンマー国民の多くは、
川魚は食しますが海の魚は余り食べません。
そのために、ミャンマーの近海では多くの魚類が捕獲されます。

個人事業のレベルでは対応は難しいですが
中堅規模の水産会社が本格的に活動を行えば、
かなり有望な事業になると考えられます。

日本向けに、ブラックタイガーなどの
海老類が沢山輸出されています。
また、 ある程度魚類を加工して日本に持ち込めば、
かなりの規模での事業化が期待できます。

まだまだ同国の水産分野には、
日本の中小企業や中堅企業が事業を始める余地は
十分にあるといえます。

また、大きなシャコや、時期によっては、
おいしい蟹などもたくさんとれます。

これらの水産加工品を販売するのは
おもしろいビジネスになると思います。

かまぼこなどの練り物商品の工場もいいかもしれません。

【２】観光旅館の経営

ホテルの経営は大手資本でないと叶わないが、
観光地での旅館経営は魅力的です。

ミャンマーは一般的には貧乏な国と思われていますが、
一部の観光地では、
現地の人でさえ外国人価格でないと泊まれないような宿があり、
ミャンマー人宿泊客で賑っています。

新興成金らが、ステータスとして泊まっています。
リゾート地で、コッテージ風の宿を展開すれば将来性は大いにあるでしょう。

今後日本の観光客の増加が予想され、
非常に魅力的な分野と考えられます。
欧州の人たちの宿泊も期待できそうです。

【３】スーパー・マーケット 食品スーパーをミャンマーで経営

ミャンマー人の衛生観念が高まり、
有望な分野となってきました。
日常品分野でのスーパー経営は好機到来と考えられます。

ミャンマーは市場経済の進展により、
国民のかなりの人は予想以上に金持ちです。

国内には商品が出回っており、
一旗上げたい人や日本でチャンスを逸した人が、
廉価良品でシステム的に店舗展開すれば、
成功の可能性は大いにあります。

シティースーパーグループやオーシャンというスーパーの会社が

ミャンマー国内で躍進をしており、
大変繁盛していますが、
まだそれほどの規模にまで成長していないので、
チャンスは大いに残されています。

【４】婦人衣料品店

ミャンマーでは、近年ファッション店が増えています。
ヤンゴン市内においてはつい数年前まで
女性は民族衣装のロンジーをはいていましたが
今はスカートをはいている女性が目立つようになってきました。

また、婦人衣料品店の店内がますます明るくなってきました。
これらのことは、婦人衣料の需要が伸びていることを示しています。

ミャンマーの多くの人は日本が好きです。
日本の商品に憧れを持っています。
余り先進的でない程度のモードでミャンマー国内で縫製して販売すれば、
婦人衣料品店経営の将来は明るいものと考えられます。
日本のギャル服の中古などの販売ビジネスがおもしろいかもしれません。

【５】オンラインショッピング

オンラインショッピングは、今年が元年です。
去年より、オンラインショッピングがオープンしてきました。

決済は、基本的には、銀行振込みでの対応。
また物流網はバス停を使うようです。

バス停の駅で、お客様を待っていて、
モノを受け取る仕組みでの運営でスタートされています。

楽天のようなメガモールビジネスを構築する大チャンスです。

また、上記のサービスを展開するべく
雪崩の勢いでやってくる日本企業向けのサービスと
日本企業の駐在員向けのサービスも
大いにチャンスがあるところです。

通貨や通信環境など、まだ課題もあるといえますが
整備が急速に進んでいる状況です。
まだ物価も安く、投資費用が低く抑えられます。

他のビジネスについても、
ミャンマーは東南アジア諸国の中でも全体的にサービスが未熟で、
チャンスが多いです。

上記の事から、弊社でも問い合わせが多くなってきております。
視察ツアーの開催も予定しておりますので、お気軽にご連絡下さい。